

施策評価調書(25年度実績)

施策コード	Ⅲ-1-(2)
長期総合計画頁	115

政策体系	施策名	いじめ・不登校対策の強化	所管部局名	教育庁
	政策名	教育の再生、未来を拓く人づくりと青少年の健全育成	関係部局名	教育庁

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②
取組項目	生徒指導体制・教育相談体制の充実	関係機関と連携した支援の充実

【Ⅱ. 目標指標】

指標	関連する取組No.	基準値		25年度			26年度	27年度	目標達成度(%)											
		年度	基準値	目標値a	実績b	b/a	目標値	目標値	25	50	75	100	125							
i いじめの解消率(%)	小学校	①②	H22	73.4	76.0 (H24)	79.0 (H24)	103.9%	78.7	80											
	中学校	①②	H22	66.4	71.8 (H24)	77.6 (H24)	108.1%	77.3	80											
ii 不登校児童生徒の学校復帰率(%)	小学校	①②	H22	34.9	40.9 (H24)	32.1 (H24)	78.5%	47	50											
	中学校	①②	H22	31.8	39.1 (H24)	39.1 (H24)	100.0%	46.4	50											

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理由等	平均評価
i 達成	いじめ防止対策スキルアップ研修やネットいじめ相談等を実施し、解消率の向上を図ったことにより、目標を達成できた。25年9月に「いじめ防止対策推進法」が施行されたことも受け、今後も更なる解消率の向上を図っていく。なお、25年度実績については、8月以降文部科学省から発表予定のため、24年度実績を記載している。	概ね達成
ii 達成不十分	教育支援センター連絡会議や地区スクールカウンセラー連絡会議を開催し、不登校児童生徒の学校復帰に取り組んだが、小学校においてはスクールカウンセラーの配置校割合が低いため専門的ケアが不十分となり、目標値に達しなかった。なお、25年度実績については、8月以降文部科学省から発表予定のため、24年度実績を記載している。	

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・教職員研修やいじめゼロ子どもサミット、いじめ防止資料配布等により、学校におけるいじめ防止の取り組みが推進された。 ・心のふれあいキャンプ実施一カ月後に行ったアンケートによると、78%の児童生徒に部分登校や完全登校などの変容が見られた。
②	・いじめ対策連絡協議会を年3回開催し、警察、児童相談所、市町村福祉部署などが連携した支援の充実が図られた。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(25年度事業)	事業コスト(千円)	26年度の実施状況	主要な施策の成果掲載頁
①	いじめ・不登校等未然防止対策事業	26,982	継続	239
②	いじめ・不登校解決支援事業	140,411	継続	240
①	心のふれあいキャンプ推進事業	11,791	継続	241

【VI. 施策に対する意見・提言】

○「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会(H25.12.19) ・ソーシャルメディア、特にLINE(ライン)がいじめの原因にもなっている。夜更かしもする。大人や教師が把握できていないことも問題であり、行政・PTA・警察などが子供たちとの関わり方について体系づけを行うべきではないか。	
---	--

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
B	<ul style="list-style-type: none"> ・大分県いじめ防止基本方針の周知やいじめ対策連絡協議会を開催し、関係機関と更なる連携を推進し、社会全体でいじめ防止の啓発や取り組みを行う。 ・24時間いじめ相談ダイヤル、ネットいじめメール相談、毎学期のいじめアンケート等を実施し、相談体制の充実を図る。 ・いじめ対応スキルアップ研修を実施し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応の校内体制を充実させる。 ・解決が難しいいじめ問題に対していじめ解決支援チームを派遣し、解決を図る。 ・不登校対策コーディネーターを県内16市町に配置し、不登校の未然防止の取り組みを推進する。 ・スクールカウンセラーの小・中連携配置を増やし、支援を継続することで、中学1年次での不登校の出現を予防する。 ・心のふれあいキャンプでは、発達障がいのある児童に特化したキャンププログラムの見直しを行い、より高い効果を目指す。